

令和7年度 第2回江別市文化財保護委員会会議録（要旨）

日 時	令和7年12月17日（水） 午前10時00分～午前11時20分
場 所	教育庁舎 大会議室
出席委員 （10名）	◎小林孝二、○右代啓視、安部由里香、池田典子、後藤一樹、園部真幸、成田裕之、本吉トキ子、柳瀬由佳、山田伸一
市・事務局 （6名）	教育長、教育部長、教育部次長、郷土資料館長、文化財係長、文化財係主査
傍聴者	なし
議題	（1）旧岡田倉庫について （2）文化財施設の整備等について （3）令和7年度上半期に受け入れた寄贈資料について （4）その他

会議録（要旨）

郷土資料館長	<p>（開始10：00）</p> <p>ただいまから、令和7年度第2回江別市文化財保護委員会を開会する。</p> <p>本日は会議終了後に旧岡田倉庫の見学を予定しているが、4月の第1回文化財保護委員会で、見学会の実施を約束しながら、年末のこの時期になったことをお詫び申し上げます。</p> <p>令和7年度第2回文化財保護委員会の開会にあたり、教育長からご挨拶申し上げます。</p>
教育長	<p>皆様には、年末のお忙しい中お集まりいただき心から御礼申し上げます。</p> <p>先ほど郷土資料館長から、旧岡田倉庫の見学に係る対応に不手際があったことをお詫び申し上げたが、教育委員会としても大変申し訳ないことと認識しており、心からお詫び申し上げます。</p> <p>令和7年も残り少なくなったが、今年も江別市の文化財保護に対する委員の皆様の多くのご支援・ご協力に感謝する。</p> <p>今年は、「昭和100年」に当たる年であるが、こうしたことがきっかけで、江別市民の間でも「昭和」を中心とした歴史に対する関心の高まりを感じる。</p> <p>郷土資料館では「えべつ昭和100年」と題した「郷土資料館ロビー展」を今月20日から令和8年1月25日までの期間で開催する予定なので、委員の皆様もぜひご覧いただければ幸いです。</p> <p>結びに、委員の皆様のご健勝をご祈念申し上げ、これまでと同様に江別市の文化財保護に対して、引き続きご指導、ご助言、ご提言などをお願い申し上げます。開会のご挨拶とさせていただきます。</p>
郷土資料館長	<p>それでは、次第3の「議題」に入る。以後の進行は江別市文化財保護条例施行規則第3条第3項の規定により、委員長にお願いする。</p>
委員長	<p>それでは早速議事に入る。</p> <p>次第に従い、議題（1）「旧岡田倉庫について」事務局から報告願う。</p>
文化財係主査	<p>旧岡田倉庫移転復元工事についてご説明申し上げます。この件については4月の第1回文化財保護委員会で概略を説明し、その後経済部に工事に係る最終的な資料の提出</p>

	<p>を求め、実施設計書などの関係資料の提出を受けたが、その資料に基づき現状変更が行われた箇所についてご説明する。</p> <p>最初に、移設によって所在地が千歳川に面した2条1丁目5番地から、会社通に面した8番地に変更となった。</p> <p>次に、イベント施設である「外輪船」開設時の工事で設置された風除室・荷捌きポーチは、創建当時のものではないので撤去した。</p> <p>建物の東側及び西側に、換気フード及びボイラーなどの吸排気口を設置した。</p> <p>「外輪船」開設時には、壁は木製部材で補強していたが、それを撤去して鋼材で補強した。</p> <p>外壁の札幌軟石は既存の軟石を使用しているが、破損などで再利用できない軟石は新しい材料と交換した。</p> <p>小屋組は創建当時の構造を継承し、部材はできるだけ再利用した。屋根はカラー鋼板葺きに代えて、ガリバリウム鋼板葺きとしたほか、野地板、トラス、化粧庇は可能な限り創建時のものを再利用した。</p> <p>建物の沈下を防ぐ目的で基礎の下に打つ杭は、移設前は木杭を277本使用していたものを、移設後はより頑丈なコンクリート杭を22本打った。</p> <p>建物基礎については、移設前は木杭の上に玉石と無筋コンクリートを敷設して、その上に札幌軟石を積んでいたが、移設後はコンクリート杭の上に床に連結したコンクリートを敷設した。</p> <p>床は、移設前の土間コンクリートを撤去し、基礎に連結したコンクリート床を新設した。</p> <p>出入口は、移設前の観音開きから引き戸に変わった。大きさは移設前と場所は変わらず、間口も広がっていないが、市道側の入口は扉の両側にある柱が太くなったことにより20cm狭くなった。</p> <p>以上が移設に伴う変更点で、出窓の撤去など創建時の姿に近づけていること、部材を再利用するなど現状復旧に努めていることから、教育委員会ではこれを適正と認めた。</p>
委員長	ただいまの説明に関し、委員からご質問・ご意見等あれば、ご発言願う。
委員	資料によると、移設前の木杭は実施設計段階で確認できたものを赤い点で示し、基礎撤去後に確認されたものは青い点で示しているが、工事の前後で確認できた木杭の数の違いはどこから生じたのか。
文化財係主査	基礎の真下にある杭は、構造的にその場所にあることが想定できたので、実施設計の段階で確認できたのだと思うが、それ以外の杭は建物の四隅付近に多く分布していることから、補強のために打たれたものと推定され、これは必ずしも規則的に打たれてはいない様子なので、実施設計の段階では確認できず、実際に基礎を撤去した段階で確認されたものと考えられる。
委員長	実施設計で確認された杭は、設計事務所が現場の一部を掘って調査した結果を基に位置を推定したが、実際に掘ってみると推定した以上に大量の杭が出てきた模様である。
委員	「外輪船」に改修される以前の図面はないのか。資料の図面は、旧岡田倉庫を「アールスペース外輪船」として整備した以降のもの、今回新たに改修したものが載っているが、「外輪船」に整備される以前の図面はあるのか。

	<p>「外輪船」として整備した際に、出窓やポーチなどを設置する工事を行った。それ以前の図面があれば、「岡田倉庫の原型」がどういうものだったのかということを確認できるが、原形がわからないと「指定文化財を復元する」といっても比較することができない。資料で示されている「移設前の立面図」は、「外輪船」として改修された以降のものであるから、本来は「原型」とはいえないのではないか。</p> <p>文化財として原形に戻すということを前提に考えるのであれば、本来の姿との比較で、今回どのように変更したのかということの評価しないと意味がないのではないかと気がする。</p>
文化財係主査	平成6年に江別市教育委員会が調査を行った際の図面は残っているが、それ以前のものは見つからなかった。
委員	外観を見ると、玄関ポーチが元の姿と大きく変わっている。パッと見た瞬間、明らかに違うことが分かる。既に工事は完了しているが、本来は原形図と今回の移設復元に当たり改修した部分の図を示しながら比較しないと議論が始まらないと思う。
委員長	<p>文化財保護委員長としてというよりは、現場の調査をした人間として言うと、それについては、教育委員会に「調査して資料を調べてください」と依頼したが、「ない」とのことだった。当時の写真も「旧岡田住宅」の外観が多少写っている程度で、倉庫が写っているものはなかった。逆に言うと、基本的に建物というのは、改修を経て今に至っているものが多いので、私が協力した範囲では、解体しながら当時の姿を探っていき、「これはこうだっただろう」ということを推定して復元した。それ以外の新しい設備については、文化財としての視点からは評価しようがないので、私は関与していない。</p> <p>それから、川側と道路側に設置されている出入口については、私が見た範囲でも、「外輪船」に改修したときからか、それ以前からかは分からないが、下部を大きく変えている。文化財的な視点で言うと、そこから当初の姿を確認するというのは難しいということになる。</p> <p>今の出入口についても、施設として安全に使用できるように江別市がこのように決めたということのようだから、私が関与することはできない。</p>
委員長	他にご質問・ご意見などあれば、ご発言願いたい。
副委員長	資料の「移設前軟石状況図」に、軟石を交換したものと一部補修したものについて示されているが、この「一部補修」とはどういう方法を取ったのか。
文化財係主査	申し訳ないが、補修方法については確認していない。
委員長	私が見た範囲で言うと、特に端部の欠けているような部分については、収縮モルタルと強度を上げる薬剤を混ぜたものを塗り込んで整形したと思う。整形に切り取ってはめ込むことができるところは新しい石を使って復元した。これは、石造の建物を復元する際に通常用いられる工法、材料とほぼ同じである。
副委員長	<p>移設した後に、旧岡田倉庫をどういうふうを活用していくのかということが一番知りたい。例えば、学校教育における活用についてどのように考えていくか。</p> <p>それから、建物がどんな経歴があって、どのようにして移設して保存したのかということがわかる、ちょっとした看板なり、展示コーナーなどを設けていただきたい。</p>
郷土資料館長	旧岡田倉庫の利活用については、保存活用事業者を公募した際に、デジタルアートカフェで賑わいを創出するという提案を受け、旧岡田住宅と一体化して飲食店として活用することで、旧岡田倉庫と旧岡田住宅との相乗効果による集客を期待して事業者

	<p>を選定したという経過がある。基本的にはそういった形で利活用していくことになるが、歴史を伝えるために展示コーナーなどを設けるというご提案については、今後事業を所管する経済部に働きかけていきたい。</p>
副委員長	<p>冒頭の挨拶の中で、教育長が「今年には昭和 100 年で、江別市民の間に歴史に対する関心が高まっている環境がある」と言われた。</p> <p>そこで、岡田倉庫は、学校教育の中で岡田倉庫自体や「石狩川汽船」といった河川を通じた歴史を学習するときに、見学できる環境にあるのか。私は、そういった環境を整備することが必要だと考える。</p> <p>ちょっとした展示などを行うことが、子供たちの育成においても非常に大切なことだと思うので、ぜひ検討願いたい。</p>
郷土資料館長	<p>郷土資料館でも従来から市内の史跡などを巡る「再発見・江別探訪」などの事業を実施していることから、子供たちに旧岡田倉庫が歴史的な場所であることを認識してもらうため、何らかの取り組みができないかということも、経済部と連携して検討していきたい。</p>
委員	<p>今、副委員長が言われたことに補足したい。</p> <p>私もそのことについて、ぜひお願いしたいとかねてから思っていた。実際に子供たちに「江別にあるもので、何か興味がある？」と聞いた時に、「石狩川」「レンガ」、そして「遺跡」の3つを必ず言う。それで、そのことの夢を叶えてあげたいと思って、自分が退職のときに教育委員会にそれらの見学を依頼したところ、快く受けてくれて、石狩川は船に乗って、史跡はバスで、そして遺跡はそれぞれの場所でボランティアの方が案内してくれた。その時子供たちは、ビデオで石狩川の歴史、川縁にあった岡田倉庫などの倉庫群、そしてレンガの歴史を見て、すごく興味を持って見事にまとめてくれた。</p> <p>市内には他に「E B R I」がある。私は「旧ヒダ工場」が「E B R I」になったとき、何か少し商業ベースな感じがして、「レンガに関する建物なのにどうしてレンガの歴史を語るようなものがないのだろう、そういうものがないのはおかしいのではないか」と思っていたが、今は観光協会からの依頼で歴史について解説するボランティアが常駐している。</p> <p>旧岡田倉庫についても、今副委員長が言われたように、写真など歴史についてわかるようなものを内部に展示すればいいのではないかと思う。</p>
郷土資料館長	<p>郷土資料館でも、小学校を対象とした出前講座とか館の見学などで、毎年 2000 人ぐらいの利用がある。それだけの数の子供たちが歴史を学ぶ機会があるので、様々な工夫をしながら、関係部署とも連携して岡田倉庫の歴史についても伝えていくための取り組みを行っていきたい。</p>
委員	<p>今の話に関連して、教育的な事業について言うと、三好前市長が就任した頃だったかと思うが、「石狩川振興財団」が中心となって実施していた「石狩川エコミュージアム」という、「弁天丸」に乗船して川下りを体験したり、歴史的建造物をめぐったりするなど、様々な体験学習がセットになった事業があった。</p> <p>当時、こうした取り組みを通じて、石狩川を中心としたまちづくりをやろうという活動がかなり本格化して、三好前市長は、かなり乗り気でやっていたようだが、結局頓挫してしまった。今の「かわまちづくり事業」も、この話がああの時期に出ていれば、今とはまた違った展開になっていたのではないか。私も、石狩川振興財団の学習会に</p>

	<p>何度か参加したが、非常に積極的な取り組みだった。そこで、事業を所管する経済部が、財団が行った取り組みを教訓として、実際に「かわまちづくり協議会」で議論されたことを、どこまで生かして岡田倉庫を含めた「かわまちづくり」を考えているのかと思う。せつかく多くの市民を集めて議論したのだから、その内容を反映させてほしい。そうなると、当然教育委員会としても、いろいろと事業に関与していく必要がある。例えば、今石狩川振興財団がどのような取り組みを行っているのかなど、その辺の調査も含めて検討していただきたい。</p>
郷土資料館長	<p>教育委員会としても、経済部、かわまちづくり協議会と連携協力しながら、できることはないか検討したい。</p>
委員長	<p>少しだけ私から補足させてほしい。</p> <p>最初に、現状変更についての説明があった。以前から言っているが、市の指定文化財の現状変更だから、次の世代の人たちに元々どういうものであったかという情報を伝えるために、きちんとした工事の記録を整理して残してもらいたい。</p> <p>今まで委員の方々からも指摘があったように、出入口などの外観がかなり変わっているが、少なくとも工事に関わる資料は、既にできていると思うので、こういった部分も整理してほしい。</p> <p>それから、例えばこの資料では、木杭は倉庫の元の場所にあったものだけ示されているが、移築先の場所からもさらに大量の木杭が発見されている。それについては、施工業者さんがきちんと木杭があった位置を図面に落としてくれたので、それも含めて、ちゃんと整理しておいていただきたい。</p> <p>このように、復元した場所も実は大変重要な場所であるということを説明できるようにしておいてほしいし、先ほどから委員の方々からもご指摘があるように、文化財を歴史について語る場として、どのように活用していくのかということも考えていただきたい。</p> <p>内部は飲食関係の設備がしっかりと作られているが、その中でどれだけ文化財として歴史を語るができるのかということは、私が非常に危惧しているところである。これについては、事業を所管する部署ともきちんと相談していただきたい。</p>
委員	<p>先日、岡田倉庫の様子を見に行ったら外構工事が行われていて、重機で地面を掘っていた。おそらく、この工事が行われている場所も杭が出てきた部分の端にかかっているのではないと思われるので、目を配る必要があると思う。報告書を作成した際に「この場所にも杭があるはずなのに、なぜ報告書に記録されていないのか」と問われて、「外構工事が行われている際に確認していなかった」というのはあってはならない。こうした工事にもきちんと関わって、チェックした上で報告書を作成いただきたい。きちんと確認しないと、実は木杭が打たれている範囲がもっと広がったとしてもそれを見逃してしまうことになるかもしれない。</p>
副委員長	<p>今の委員のお話に関連して、外構工事についても、その場所に埋蔵文化財があったかどうか確認したのか、要するに「何m掘って、そこから埋蔵文化財が出た、出なかった」ということを報告書の中に書いていただきたい。これは後で大きく影響してくる大切なことである。</p>
委員長	<p>旧岡田倉庫の移築先から大量に木杭が出てきたという状況を考えると、木杭が打たれた範囲は「旧岡田住宅」の方まで広がっている可能性が非常に大きいと思う。これから、「旧岡田住宅」の工事に入るが、施工する担当部署に任せておくと、もし木杭</p>

	<p>が出てきたとしても、そのまま「何もなかった」ということで壊されてしまうということも考えられるので、こちらについても気を配っていただきたい。</p> <p>私が見た感じでは、木杭が埋まっている範囲は、旧岡田倉庫を移築した敷地の両端の、「旧岡田住宅」側から王子製紙工場側までである程度続いている可能性が高い。そういうことを真面目に考えたら、大変な仕事になると思うので、こういったことを市単独でできるものかどうかということも考えて、以前に国の補助金を活用する方法がいくつかあるという話をした。そういうことも含めて検討していただきたい。</p>
委員長	<p>議題1「旧岡田倉庫について」は、一旦ここで終わらせていただきたい。</p> <p>それでは、次の議題2「文化財施設の整備等について」事務局から報告願う。</p>
文化財係主査	<p>文化財施設の整備等についてご説明申し上げます。</p> <p>まず、「火薬庫」について。旧江別小学校跡地利活用に伴い、火薬庫前の道路が現在の位置より10mほど国道12号側になる整備計画があり、これにより火薬庫に影響を及ぼすことはないが、来年度は工事のため火薬庫を近くで見ることができなくなる。現在火薬庫が建っている場所の平坦面が非常に狭いことから、道路整備担当部署に、道路工事に付帯して、平坦面の拡幅などを行えないか打診中である。</p>
文化財係主査	<p>次に「野幌屯田兵第二中隊本部」について。解体復元工事から30年が経過し、各所に傷みが見られる。特に正面玄関横と裏側の壁板が腐食し、雨や雪が入って腐食がこれ以上進行しないよう、応急措置を施した。この場所を補修するための必要経費を令和8年度予算で要求している。</p> <p>また、他にも傷んでいる箇所があり、外見では確認できない破損箇所も存在する可能性があることから、総合的な修復計画を立案するため、専門業者に劣化度調査を委託する経費も平成8年度予算で要求している。</p>
文化財係主査	<p>湯川公園内にある「野幌屯田兵屋」も経年劣化で傷みが生じている。特に外壁の下段が外れるなどし、小動物などが入り込む危険性があることから、これを修繕する経費を平成8年度予算で要求している。</p>
文化財係主査	<p>9月に副委員長が北海道教育委員会の文化財パトロールの調査員として「江別古墳群」を調査され、墳丘が低くなっているなどのご指摘をいただいた。江別古墳群は国の史跡に指定されていることから、整備については史跡整備計画を策定し、文化庁からの承認を受ける必要があると認識している。また文化財保護法に規定されている「文化財保存活用地域計画」と紐付ける必要があることも認識しているので、これらの計画策定の検討を通じて対処していきたい。</p> <p>また、文化財パトロールでは、副委員長から「北海道江別太遺跡出土品」と「大麻3遺跡出土の土偶」の湿度管理についてもご指摘をいただいた。ご指摘いただいた点については、できることから改善に努めていきたい。</p>
委員長	<p>ただいまの説明に関し、委員から質問・意見等あれば、ご発言願う。</p>
委員	<p>「江別古墳群」は、将来的に整備しようということで、国の指定史跡になって以降しばらくの間は、毎年のように整備費用を予算要求していたかと記憶している。確か、建設部で古墳群の前を走る5丁目通りのルートが変更になるという道路整備計画の影響などでしばらくは古墳群の整備計画も止まっていたが、道路整備計画については既に結論が出ているとも聞いた。今後の江別古墳群の史跡整備についての構想についてお聞きしたい。</p>
文化財係主査	<p>委員ご指摘のとおり、国史跡に指定された時点から5丁目通りのルート変更という</p>

	<p>計画があったことから、なかなか整備に着手できない状況だった。その後、令和6年にぜひ札幌北広島環状線の変更ルートが決定して、5丁目通りとの合流地点は江別市リサイクルセンター前の交差点になった。これにより、江別古墳群の史跡指定地域には影響を及ぼすことはなく、懸案事項がクリアされたことから、先ほど申し上げたとおり「史跡整備計画」や「文化財保存活用地域計画」の活用などを検討していきたい。</p>
委員	<p>江別には142ヶ所の遺跡と、様々な重要文化財、史跡があるが、講演会などの場で市民の方から「江別にはこれだけ素晴らしい遺跡や史跡がたくさんあるのに、どうして世界文化遺産である『北海道・北東北の縄文遺跡群』の構成資産に入っていないのか」ということをよく聞かれる。江別市内には、原形がある程度わかる状態で残っている縄文時代の遺跡というのではないので、残念ながら「北海道、北東北の縄文遺跡群」の構成資産に入ることはできない。しかし、江別には道内で唯一、擦文時代の古墳群が残っている。これは非常に貴重なことであり、文化財保護や文化財を活用したまちづくり、学校教育など様々な視点から考えてもこれを生かさない手はない。将来的には、市民がいつでも来られて、見て歴史に浸れる場所になる、そういう計画を作る必要があると思う。</p>
郷土資料館長	<p>文化財係主査説明のとおり、令和6年に札幌北広島環状線のルートが確定して、江別古墳群には影響を及ぼさないということがわかった。今後の史跡整備構想だが、市内には江別古墳群だけではなく、他にも野幌屯田兵第二中隊本部など、様々な文化財が存在することから、文化財全体をどのように保存活用していくかということが課題であり、「文化財保存活用地域計画」の策定などを視野に入れながら、総合的に検討していきたい。</p>
副委員長	<p>文化財保護法が改正されて、文化財の保護は、保存だけではなく活用も見据えた方法に変わってきている。この文化財保護法に基づき、北海道では、「北海道文化財保存活用大綱」が作られており、市町村では「文化財保存活用地域計画」を作ることとされている。</p> <p>江別市も国の法的な根拠の下で中長期的な文化財保存活用計画を整備することによって、予算や国の補助金も含めて様々なことが可能になるので、そのような中長期計画を策定した上で進めていただきたい。せっかく142ヶ所もの遺跡があるのだから、学校教育におけるあり方、全道の道民、或いは様々な日本の国民に対してどのように発信していくのかという大きな視点を持ちながら、そういった活用計画を立てていただきたいと思っている。</p>
委員	<p>「火薬庫」前の道路を移動する際に、周辺の崖になっている部分を整備するよう関係部署に働きかけているとのことだが、地盤のレベルを定期的に測って危険かどうか確認するということは行っているのか。</p>
郷土資料館長	<p>今まで地盤の計測は行っていない。</p> <p>建物を安定させるため、今回の道路変更の工事に付帯して現在崖になっている部分をもう少しフラットにすることはできないかということを、関係部署に働きかけているところである。</p>
委員長	<p>「火薬庫」の話が出たが、数日前にスマートフォンで江別市のホームページを見たところ、旧江別小学校跡地利活用事業で貸し付ける予定の土地には商業施設を誘致するということが大きく載っていた。</p> <p>歴史を振り返ってみると、元々火薬庫は貸付予定地である旧江別小学校の敷地内に</p>

	<p>あった。そういう視点で考えると、私は火薬庫を元の場所に戻せないのかなということを思っている。</p> <p>なぜかと言うと、火薬庫は規模こそ小さいが重要文化財クラスの貴重な建物だからである。年代的にも、江別屯田兵村の関連施設として建てられたもので、しかもフランス積みのレンガ造りの建物で、昭和に入ると江別尋常高等小学校の御真影奉置所になった。そういう歴史的な意味を持っているので、積極的な保存活用を考えていけば「日本一小さな重要文化財」なり得る建物であるが、そういう視点がないのかなというのが気になる。この場で回答を求めるものではないが、せめて道路改修されるときにこの建物が有効活用できるようにしてもらいたいことを努力してもらいたいと思う。</p>
委員長	<p>副委員長も国の文化財保存活用地域計画について言及されたが、道内では、私も策定に関わった今金町、中標津町、標津町などが策定済みで、札幌市は2期目に入っている。</p> <p>この計画は有形文化財、無形文化財含めて対象になるものである。有形文化財と無形文化財を繋げるといえば、別制度だが、私も委員として意見を出した小樽市の「歴史的風致維持向上計画」が先日まとめ、国の認定を受けた。そういうトータルな形で文化財の保存活用をやらうとしたら、やはり国の補助金を活用するしかない。お金の問題だけではなく、そういう計画をまとめることで問題と方向性が見えてくることもあると思うので、それを教育委員会として考えていただきたい。少なくとも教育委員会、或いは関連する施設を所管している部局も含めた形で、市全体の方向性を考えておかないといけない。この制度もそのうち枠が満杯になり、なくなってしまうのではないかと思う。</p> <p>計画が国の認定を受けられるかどうかは別にして、それをまとめることで何をやるかという指針が見えると思う。私が策定に関わった町は、人口4～5千人の規模だが、町職員が1年で作った。そういう町はたくさんある。それを、江別市ができないわけがないと思う。これは組織づくりも含めて考えてほしい。</p>
委員長	<p>それから、旧岡田倉庫だけでなく、他の文化財施設を修理する際も、どういう修理を行ったかという記録をきちんと残してほしい。次の世代の人から「何でこんな直し方をしたのか」と言われたいようにお願いしたい。</p>
委員長	<p>次に、議題3「令和7年度上半期に受け入れた寄贈資料について」事務局から報告願う。</p>
文化財係主査	<p>令和7年度上半期に受け入れた寄贈資料についてご説明申し上げます。</p> <p>今年度の4月から9月までに寄贈を受け入れた資料は、26件175点である。今回は五右衛門風呂や手回し式の卓上ミシンなど、バリエーションに富んだ資料を寄贈いただいたと感じる。これらの資料は、9月30日から11月3日、11月8日から12月14日の2回に分けて資料館ロビーにて展示した。寄贈資料の1つである「ゴールデンカムイ」の漫画単行本全31巻は、常時ロビーに置いてあり、誰でも自由に読むことができる。</p>
委員長	<p>ただいまの説明に関し、委員から質問・意見等あれば、ご発言願う。</p>
委員	<p>配付資料が、とても丁寧に寄贈資料の情報を拾って書き留めているなど感心した。多分、限られた時間を使ってこのような地道な作業を行ったのではないかと思うが、よくまとまっていると思う。</p>
委員	<p>収蔵資料に関し、要望がある。郷土資料館の収蔵資料については、「IBミュージア</p>

	<p>ム」というデータベースソフトで管理している。一部の資料は江別市ホームページでも一般公開しており、検索すると簡単に資料の概要を見ることができる。</p> <p>しかし、公開されているのはほとんどが民具等の郷土資料で、残念ながら郷土資料館の収蔵資料の圧倒的多数を占める考古資料は公開されていない。考古資料は何百万点と数が多すぎるため「IB ミュージアム」には登録していないことによるものである。そのため、公開されているデータベースで、例えば国の重要文化財である「元江別1遺跡土壌墓出土品」の「恵山式土器」を見たいと思っても、考古資料であるため登録されていないため検索できない。そこで、重要文化財のような主要なものだけでも公開することを検討していただきたい。</p>
委員長	「4 その他」について、事務局から報告願う。
郷土資料館長	<p>私から、2点ほどご報告申し上げます。</p> <p>1点目は、歴史的建造物である「旧町村農場」と「林木育種場旧庁舎」の主な事業について、報告申し上げます。</p> <p>最初に「旧町村農場」について。盆栽展や「己書作品展」などの新たな展示会を開催し、物販等を伴うイベントでは500人ほどの集客があるものもあり、多くの人で賑わいを見せた。</p> <p>次に「林木育種場旧庁舎」について。「建築デザインからひもとく北海道林木育種場旧庁舎の魅力」と題したセミナーの開催や、大学との協働による新メニュー開発のワークショップ、江別観光特使である桜庭和さんのライブなどが開催された。</p> <p>この2つの施設では、来年度、「郷土資料館出張展示」という企画展を予定しており、資料館の収蔵資料の活用を図っていく予定である。</p>
郷土資料館長	<p>2点目は、前回の委員会で委員から出た「郷土資料館の運営に関して『博物館協議会』を設置し、文化財保護委員会と分けた方がよいのではないか」という意見について、事務局で検討した結果を報告申し上げます。</p> <p>当館では、開館以来、文化財保護委員の皆様が、江別の歴史や文化財に精通していることから、郷土史を伝える施設としての郷土資料館の運営について意見を述べる役割を担っていただいている。</p> <p>館の事業については、市内の文化財を収集、保管し、市民の利用に供することで、生涯学習の振興、学術・文化の発展に寄与するという目的のもとに実施しており、また、市内の指定文化財・登録文化財15件のうち、郷土資料館が所蔵・所管しているものは、10件に及ぶことから、文化財を適正に管理し、それを活用していくという点では、文化財保護委員の皆様から意見をいただくことが、有効かつ合理的であると考えている。郷土史を伝えていく資料館として、引き続き、皆様にご協力いただきたく、文化財保護委員の皆様には郷土資料館のあり方についてもご意見をいただきたいと考えている。</p>
委員長	ただいまの説明に関し、委員から質問・意見等あれば、ご発言願う。
委員	副委員長が言われたように、それだけの課題があるのなら、文化財保護委員会の開催を、年2回から4回にするというのも一つの方法である。しかし、文化財の保存活用と資料収集など博物館業務におけるそれぞれの課題は、重なる部分もあるが、かなり違う部分もあるので、議論内容も変わってくる。本来は、郷土資料館が設置された時に文化財保護委員会とは別に、博物館協議会を作ればよかったが、今でも遅くないので検討してもらいたいと思う。

	<p>それと併せて、江別市郷土資料館は博物館法上の「登録博物館」ではない。江別市郷土資料館も、博物館としての活動をきちんと行っていくためには、やはり博物館法上の「登録博物館」として位置付けていくべきだと思う。</p> <p>これは郷土資料館のあり方の問題であるから、そこをきちんと整理していただきたい。</p> <p>その上で、文化財保護委員会は教育委員会の他の部署で所管し、博物館協議会は郷土資料館で所管して役割を分けるということがあってもよいと思う。郷土資料館はどうあるべきかという視点に立って検討していただきたい。</p>
教育部長	<p>ただいま委員からお話があった博物館協議会の設立に当たっては、先ほど言われた博物館法上の登録博物館になるということとセットで検討していくべき課題だと考えている。併せて、老朽化した郷土資料館の建物が今後「いつまで持つか」ということも検討しなければならない課題である。そこで、「郷土資料館のあり方」として、今ご指摘のあった課題と、郷土資料館をいつまで現在の施設で運営していくのかという課題を一体的に検討していく必要があり、我々としては、ご指摘の点はしっかりと課題として受け止めて検討していきたいと考えている。</p>
委員長	<p>私からも付け加えさせていただく。</p> <p>これは本当に、教育委員会全体で考えなければならない問題だと思う。組織のあり方や人員配置などにも関わることだから、今のまま郷土資料館の中だけでこの問題を考えるという話にはならないと思う。私の委員長としての経験を踏まえて考えてみても、とてもこの人数でできるようなことではないと思う。</p> <p>そういうわけで、少なくとも教育委員会全体で、ひいては江別市全体で考えていただきたい。</p> <p>私は、小樽市の景観審議会の会長も長年務めているが、小樽市でできるのだから、これだけの規模がある江別市ができないわけがないと思う。次の世代の人が頑張れるようなものにしてほしい。</p> <p>もう1つだけ言うと、「江別市文化財保護委員会」という名前がややどうも引っかかる。文化財保護法上は、「地方文化財保護審議会」となっているのに、それをわざわざ「文化財保護委員会」としたことは、何か意図があるのではないかという気にもするが、特に意図がないのなら「文化財保護審議会」でいいのではないかという気もする。それと同時に、郷土資料館をどのようにしていくかを検討するための組織も別に必要かと思う。</p>
委員長	<p>会議についてはここで終了する。</p> <p>(終了時刻 11時20分 終了後、旧岡田倉庫に移動し見学)</p>